

「 さ さ え 」

2007年4月発行 情報誌 第19号

発行 NPO福祉用具ネット事務局

住所:福岡県田川市伊田4395(福岡県立大学付属研究所 生涯福祉研究センター内)

TEL/FAX: 0947-42-2286

E-mail npo-fukusiyougunet@sage.ocn.ne.jp

HP <http://www10.ocn.ne.jp/~npofynet/enter.htm>

情報誌「ささえ」は年4回(1月・4月・7月・10月)発行しています。

福祉用具はあなたの自立をささえます

あなたのささえがNPO福祉用具ネットを元気にします

床ずれ防止ハイブリッドエアマット「ピーウェーブ」

P-Wave

介護保険レンタル対象商品

本製品は福岡県産炭地域振興センターの
助成を受けて産学官で共同開発した商品
です。



特定非営利活動法人
NPO福祉用具ネット

「大切な芽を皆さんのやさしさに包まれながら育んでいきたい…」

ドイツの新しい介護事情

理事長 豊田 謙二 熊本学園大学大学院 社会福祉学研究学科教授

2007年3月20日付けの「Suddeutsche Zeitung」(ズイート・ドイッチェツァイトUNG)というドイツの新聞に、ドイツ介護保険の新しい動向が紹介されていました。2002年に介護保険改革を実施したばかりで、その際には認知症への新たな対応や介護の質をめぐる新対策が開始されていました。今回の改革は、介護サービス額の高騰に伴う介護保険料の増額、つまり介護保険財政を主たるテーマとするものです。

この改革の動きに関連して、ハイトルン・ブラウプナー氏が同誌に「大きなさじで口に運ばれる」という表現で寄稿しています。その中で氏は、議論すべきはまず「生命の尊さ」についてであり、とくに政治家が自問すべきとして次のような問を投げかけています。「終末期に、ベッドに永い時間寝かされ、拘束され、固定され、そして大きなさじで口に運ばれる」これを良しとするのか、と。

この新聞記事に際して知り得るのは、ドイツにあってなお「身体拘束」が疑われ、人間の尊厳が問われ続けていることでもあります。とくに終末期での生き方がまず議論されるべきと指摘されています。

こうした課題はわれわれの課題でもあります。また、本NPO活動の基本姿勢に深く関わることであります。本年、本NPOは新しい年輪を刻もうとしています。会員の諸氏には是非總會にご参加いただき、大いに議論を深めていただきたいものです。本NPOをさらに強化するためにも新会員としての参加者増にも、ぜひご尽力を賜りますようお願い致します。

私事ながら、小生この3月31日をもって福岡県立大学を辞し、熊本学園大学に転任となります。今後とも変わらぬご支援をお願いいたします。

「福智町自立支援フォーラム(第3弾)」開催

太陽セランド(株) 甘村 雅博 (NPO福祉用具ネット理事)

さる1月27日(土)に福智町・NPO 福祉用具ネット・福岡県主催による第3回「自立支援フォーラム」が福智町地域交流センターにて開催されました。当日、地域住民の皆様を初め、医療、福祉の関係の方々が多く参加し、熱心に聴講されていました。

福智町では、「人権と福祉のまちづくり総合計画」を作成しています。その「まちづくり」を支援する、専門職の連携とネットワーク作りを今回のテーマとして基調講演には、九州リハビリテーション大学校の理学療法学科長 橋元隆教授より「地域支援事業とはどんなこと？」をテーマに、昨年の医療・介護・障害者の制度の改定に伴い、リハビリテーションを通して、より専門家のネットワークの重要性や地域包括支援センターの役割等の講演がありました。



その後、シンポジウム「地域連携の課題とは？」があり、コーディネーターに社会保険田川病院院長 吉村恭幸先生、シンポジストには、みろく園施設長 芦馬謙二氏 社会福祉協議会介護事業課長 柳沢 敏彦氏、コスモス診療所訪問看護ステーション 立花 寿子氏それに、基調講演をしていただいた橋元教授も参加していただきそれぞれの立場からご意見を出していただきました。今後地域住民の皆様方のニーズも高まっていくこと、また、より保健・福祉の分野でそれぞれの専門家の連携の必要性が重要になることを再確認しました。

今後のまちづくりに生かしていくことに必要なバリアフリーを考えたハード面だけではなく、ソフト面の充実を図っていかねばならないことも大切ではないかということでした。

福智町の住民の方々が、生活しやすい・住んで良かったと思えるまちにしたいものです。

今、思うこと。「福祉用具の開発に王道なし」(その10)

九州日立マクセル(株)新分野開発部長 坂田 栄二 (NPO福祉用具ネット理事)

「良いマットは良く眠れる」を地で行く大山

福岡県の工業技術センターに電話をして、試作品の評価試験が出来ることを確認した大山は、安心したのか、試作品に寝転がって不思議なエアの寝心地の感触を味わっていた。

他のメンバーは“これで明日からいろんな試験を始められるぞ”と思いながらベッド回りを片付け始めた。しばらくして「ぶつぶつ…」言っていた大山の声が聞こえなくなった。振り返ってみると大の字になって眠っているではないか！初夏とは言え、日陰ではまだ肌寒さを感じるが、事務局長はしっかり眠り込んでいた。

「風邪、引きますよ!」

そっと揺り起こそうとしたが、なかなか目を覚まさない。寝てい

試作品に思わず寝入ってしまった事務局長

るというより寝込んでいます。相当に疲れているんだろう。そのとき片づけをしていたメンバーが

「ガタッ」

と大きな音を立てた。びっくりしたように飛び起きた大山は、

「こりゃー良いマットだわ。よう寝れるわ…」

と照れ隠し気味に大声で笑った。取り囲んでいたメンバーは、笑っていいのか、喜んでいいのか反応を決めかねて、お互いに顔を見合わせた。あれほどの短い時間でぐっすり寝込めるのだから確かに眠りやすいのだろう。

一般に、エアーマットはフワフワして不安定で船酔いし易く、慣れるまではなかなか寝付けないものだが、この試作品は浮遊感が少ないために寝易いのだろう。大山のけがの功名(?)でうれしい効果がわかった。



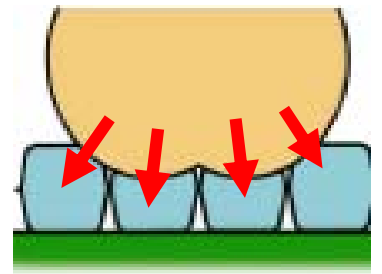
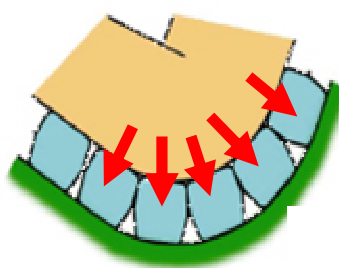
オッパイで支えるお尻

「ちょっとギャジアップしてくれん？」

ベッドの背を上げてもらいながら、角度が急になるにつれ大山の顔がほころんでいく。

「これ！ 底着きしないわ。お尻も引っ張り感がなくて、お尻に優しいわ。」

なるほど、小振りなオッパイ状のミニキュービックセル



お尻に馴染む独立支持型ミニキュービックセル

ルが、1つずつ独立してお尻の形に馴染むように変形している。あたかも、お尻を沢山のオッパイで支えているかのよう。しかし、ここで不安が持ち上がった。これだけ独立支持をするセルは、果たしてどれだけの体圧を分散できるのだろうか。確認する必要がある。これは喜んでばかりはいられないぞ。

体圧分散グラフは、青かった。

ここは福岡県工業技術センター。節電のためか2階の廊下は薄暗い。その中を目を凝らしながら廊下の突き当りまで進むと、測定室がある。その部屋には布団やマットレス、枕がうずたかく積み上げられている。日頃は、この部屋で「快眠のための寝具」のあり方を追及しているらしい。まさに私たちが求めている「テーマ」と同じだ。私たちは単なる体圧分散マットを追い求めているのではなく、快適な寝心地と、自律(自立)を支援するマットという相反するテーマを満足するマットを探求しているのである。

NPOはこの部屋に、試作品とこの試作品に匹敵する他社の高級品を持ち込んで比較試験を行い、試作品がこ

れらを超えることが出来るかを確認するのである。胸の痛くなる思いだ。

試作品の上に、シート状圧力センサーを敷き、その出力をパソコンにつないだ。

「誰か、この上に寝てみてください。」

工業技術センターの石川さんがキーボードを操作しながら、顔を振るように希望者を促した。

「私でもいいですか？」

松原が遠慮がちに小さく手を上げた。彼は、自分の試作品の素性を早く知りたかったのだろう。しかしマットに上向くやいなや、それが間違いであることに気づいた。彼は上向いているので石川さんの操作するパソコンモニターを見ることが出来ないのである。

モニターのスイッチが入ると、驚きとも歓喜とも取れる声が上がった。

「このところが、30gエリアで…。松原さん、動いちゃダメですよ！」

石川さんの解説が続く。周りの者は、マットの上の松原に背を向けたまま話している。

「誰か代わってくれやにれじゃ、どうなっているのか分からん。」

松原の声に、誰も反応しない。松原は起き上がるわけにも行かない。起き上がればモニタ画像が代わるしデータが消えてしまうからである。ようやく、松原の“早く見たい”といういらだち気持ちを察したのか、

「松原さんも見たかろう？私と代わろうかね。」

それを聞くや、見たいに決まっとるわいとでもいいいたげに、「ガバッ」と跳ね起きた。代わりに寝る大山を“早くしろよ”とでもせかすようにして彼が見たモニタには、青い四角形が並んでできた人間の形が描かれていた。

新たな悩み

青い画面を指しながら、

「これはどうなってるんや。」

「体圧が低いと青くなり、高いと黄色や赤くなるんですよ。」

石川さんは、また同じ説明を始めた。

「じゃあ、これは良い結果だということ？」

この日の測定の日会にきていた県の地域振興課の小木さんがでっかい体を喜ぶようにゆすった。

「これほどまで青色ばかりで、しっかりと体圧分散しているのは、今まで無かったですね。」

しかし、ここで松原の新たな疑問が起こった。

「この四角い青色の間の隙間は、白くて何も無いけどいいのかな？」

白く表示された部分は、体が宙に浮いていることを示している。これでは寝心地が悪かろう。

彼の次の悩みは、このとき始まった。（次号へつづく）

新年度会員募集

平成 19 年度の新会員募集中!

会員継続手続き開始!

NPO福祉用具ネットは会員の皆様の会費で運営されています。何卒引き続いてご支援いただきますようお願い致します。更新手続きがまだお済みでない方は、再度継続手続きの書類を送りますので5月末までに年会費の振込みをお願いします。(NPOの事業年度は毎年4月から翌年3月末まで)

会員になると会員価格で研修会を受講できるなどのメリットがあります。

- | | | |
|-------------------------|--------------|-------------|
| ■ 個人入会金 1,000円 | ■ 年会費 4,000 | ■ 合計 5,000円 |
| ■ 団体入会金 2,000円 | ■ 年会費 30,000 | ■ 合計32,000円 |
| ■ 賛助会員 1口 3,000円 (1口以上) | | |

* お問合せ先 電話/FAX 0947-42-2286 (*会員の継続の場合は年会費のみとなります。)

高齢者に多い病気と予防対策(シリーズ5)

社会保険田川病院院長 吉村 恭幸 (NPO福祉用具ネット理事)

健康寿命を長くするために、今回は健康度を高めることと、脳の働きを良くしておく方法や考え方について述べます。

まず、健康度を高めるヒントは(表1、表2、表3)より、

ヒント1「自分は健康だと考える」 病は気からといわれています。

自分の体調や気分がすぐれない、体の機能が悪いと思いつづける感情を抑えていると、交感神経が働いて緊張状態が体の全てにつけて起り、体調も悪くなります。逆に健康だと思っている人ほど副交感神経が働き、リラックスして健康で長生きとなるのです。

これまで医療の現場で実感してきたことを総合すれば、やはり前向きに生きること、また、喜びの報酬を自分が見つけ出して楽しく生きることが大切です。

ヒント2「3食規則正しく食べる」 高齢者の食事には低栄養の予防が肝心です。

例えば、「1日 30 品目」というように、バランスよく食べることが必要です。特に朝食は必ず摂るようにしましょう。脳は寝ている間も活発に働いているため、目覚めたばかりの脳はエネルギー不足だからです。朝食は、ブドウ糖に変わりやすいご飯やパンを食べることです。日本食のご飯がベストです。食事から摂取されたブドウ糖は、グリコーゲンとしていったん肝臓へ蓄えられます。朝起きた時は、脳が肝臓に貯蓄されたグリコーゲンを使い切っています。朝起きたらまず、朝食を摂り脳へ栄養補給をする必要があります。朝食は体温を高めます。体温の変動は脳の温度に反映しており、脳の活動とも密接に関係しています。

食事の時間をなるべく同じ時間帯にすることも大切です。体内時計に食事時間がセットされることも、その後の体調を良くすることにつながります。

ヒント3「趣味や生きがいを持つ」 健康寿命を延ばす原動力になります。

現在までの高齢者における趣味の実態調査では、趣味は高次生活機能の維持を促進する効果を持ち、生活を豊かにし、健康長寿につながるものとして積極的に評価されています。

例えば、カラオケで歌を歌うことは、声を出す刺激に加えて、音楽の楽しさを感じるというたいへん強力な刺激で脳を活性化します。すると表情が生き生きとしてきたりします。歌を歌うことの効果をさらに高めるために、どんな歌を歌えば良いかという「懐かしい歌」や「童謡」が特に効果的であるようです。これは歌にまつわる記憶や、呼び起こされる様々な情景や情感がより強く脳を刺激するためと考えられます。

表1

健康度を高めるヒント



表2



子供の頃のことを思い出すことでも、脳は活性化するので。

ヒント4 「週に5回以上は外出する」 散歩や買い物、交流の場に出かけましょう。

脳に刺激を与えるために、毎日散歩をしましょう。できれば1日 20 分が目安です。散歩のルールはキョロキョロして歩くことです。建物、景色、道端に咲く季節の花など何か新しいことはないか、脳を働かせながら歩きましょう。商店街などはたくさんの商品があり、形や色も様々で脳に多くの刺激を与えます。

おすすめは散歩をすることに加え、人と会話をすることです。散歩して途中で誰かと出会って話ができれば、脳にとってこれほど良い刺激はありません。たまには友人を誘って遊びや買い物に行くことでも良いことです。「週に1回未満しか外出しない人」は閉じこもりと定義されています。閉じこもりになると生活空間が狭くなり、家の中だけ、自室の中だけ、自分のベッドの中だけとなり、寝たきりが起ってしまいます。出来るだけ外出をするようにしましょう。

外出する時はお化粧をしたり、服装に気をつかったりすると思います。また、外出をすれば、季節の変化や人々の表情など感じ取ることも多いものです。そういったことが脳を刺激し、その活性化につながるのです。

ヒント5 「毎日、新聞を読む」 社会の動きに関心を持つことも大切です。

新聞は情報源であり、個人と社会とのつながりです。新聞はTVと異なり、自分の都合の良い時間に好きな所で見る事が出来ます。自分の知らない世界を自分のものにすることが出来ます。小さな情報でも脳の活性化に役立つものです。

読んだ新聞の内容をまとめて、家族に話して聞かせることは脳の活性化になります。話すうちに、あいまいな点が出てきて正確に理解していなかったことに気づくはず。目は新聞の文字を追っていても、脳は正確な情報を理解していなかったことに気づきます。内容を頭でまとめて、人に話すようにすると良いでしょう。

新聞の内容は多くの種類があり、人との話題にする材料となります。脳の活性化に役立つものとなります。

ヒント6 「健康情報に関心を持つ」 自分の健康は自分で守りましょう。

身体症状が全くない人はおられないでしょう。自分の持っている症状を正しく理解することが大切です。そのためには医師に受診するか、町の検診を受けたり、人間ドックや脳ドックに入って自分の状態を正しく理解することが必要です。

健康についての情報は、たくさんTVや雑誌に出ています。片寄らない正しい情報を身につけておきましょう。健康についての情報を正しく理解し、食事、運動、人とのコミュニケーションや趣味を広げることが大切です。

ヒント7 「相談相手や親しい友人が身近にいる」 地域に知り合いを増やしましょう。

健康について何時でも話し合える相談相手が身近にすることで、独りで健康について悩んだり、身体や気持ちの上の症状があるのに受診せず手遅れになることを防ぎます。

また、親しい友人がいて色々な話をすることが脳の活性化につながります。その友人から他の人へ、コミュニケーションがとれれば脳の活性化もまた広がります。

生活が孤立化しないためにも、友人は必要です。遠くに住んでいる友人よりも、近くに住んでいる隣近所の人との関係も非常に有用です。いつも信頼のおける隣人がいると心も安らぐものです。お互いの助け合いの生活を持てることは、非常に心身にとって良いことなのです。

(次号へつづく)



2006 年度福岡県立大学福祉用具研究会活動報告

福岡県立大学附属研究所 生涯福祉研究センター助手 中藤広美 (NPO福祉用具ネット理事)

2006 年度の福岡県立大学福祉用具研究会は、特定非営利活動法人 NPO 福祉用具ネットと当研究会との合同でした。今回は、『「バリアフリー社会」の研究』というテーマで参加希望者を募り、『福岡県福祉のまちづくり条例』をテキストにして、月一回の頻度で研究会を開催しました。メンバーは、建築設計、リハビリ、医療、福祉、保健、エンジニア、大学、等幅広い領域で活躍している方達でした。昨年度までの研究会の持ち方は、発表希望者を募ったり、事務局から発表依頼をする事例検討会でしたが、今回は異なりました。年度当初に月ごとのテーマと研究担当者を決め、発表をして頂くという形式ですすめられました。メンバーは仕事の合間をぬって、デジカメ片手に報告事例探しに奮闘し準備万端で研究会に参加しました。各人が『「バリアフリー社会」の研究』という共通テーマを持っているため、研究会当日はモチベーションが高く、意見交換会ではとても活発に意見が出され有意義な時間を過ごすことができました。メンバーから出される意見に、「どうしてこういった意味のない手すりがつけられているんだろう。お金の無駄遣いになっている。」、「点字ブロックの意味の役割をちゃんと認識して設置したとは思えない。」等などの意見が出され、バリアフリー設備を施工する際の有効なチェック機能の必要性を強く感じた研究会となりました。

「平成 18 年度 福祉用具研究会の開催状況」

日 時	テーマ	提案者	参加人数
5月12日(金)	2006 年度福祉用具研究会の進め方について ・「福岡県福祉のまちづくり条例」条例の解説 ・基準の解説 標準寸法と適応の検証 ・建築物における利用者への配慮について	事務局 豊田謙二、中藤広美(以上福岡県立大学) 大山美智江 (NPO 福祉用具ネット)	17 人
6月 9日(金)	建築物について その1 ～ 出入口、廊下～	大場順子 最所玲子 (小坂設計事務所)	17 人
7月 7日(金)	建築物について その2 ～ 階段、昇降機～	高橋聡明 (社会福祉法人 荻田学園) 小坂和英 (小坂設計事務所)	18 人
8月 4日(金)	建築物について その3 ～ 便所～	池田馨 (誰もが快適に暮らせる街づくり研究会)	12 人
9月 8日(金)	建築物について その4 ～ 駐車場 敷地内通路～	朝比奈 聡(グリーンコープ連合)	11 人
10月 6日(金)	建築物について その5 ～ 条例附置施設～	海尾美年子 (アップルハート訪問看護ステーション) 加藤民江((有)ホームヘルプ愛)	17 人
11月 2日(木)	建築物について その6 ～ 設置時の基準～	石田信子((有)ホームヘルプ愛) 松岡静代(筑豊労働福祉事務所)	10 人
12月 1日(金)	公共輸送車両	松原昌三(福祉 SD グループ) 木村裕子(福岡県立大学大学院生)	17 人
1月12日(金)	道路	城下邦芳(NPO 法人 寺小屋晴耕雨読)	11 人
2月 2日(金)	公園、屋外駐車場、住宅開発団地	甘村雅博(太陽セランド(株))	12 人
3月 2日(金)	高齢者が居住する住宅の設計に係る指針	村上汎海(福岡県社会保険医療協会)	12 人

平成19年度通常総会開催のご案内

日時：平成19年5月14日月曜日 18時から

場所：福岡県立大学 管理棟2階大会議室

議題：1, 平成18年度事業報告および決算報告

2, 平成19年度事業計画と予算案について

3, その他

「福智町福祉のまちづくり整備基本計画」策定事業の取り組みのご報告

事務局 大山 美智江

平成 18 年 12 月 21 日福智町役場において、「福智町福祉のまちづくり整備基本計画策定事業」の提案ならびにヒヤリング審査がありました。豊田理事長、小坂副理事長と事務局から大山が出席しました。その結果、昨年末の 12 月 25 日に本 NPO の提案が審査の結果認められ、業務の受託が決定いたしました。年明けの 1 月 4 日から本事業を開始することになりました。この 3 ヶ月間で作成するという制約のあるなか他のすべての業務を後回しにしました。朝から夜遅くまで、そして休日もなくひたすらに本事業に取り組んでできました。多くの専門職の皆様からのたくさんのご協力をいただきましたお蔭で、ようやく本事業の結果を報告書としてまとめることができました。事務局として安堵しているところです。なお、本事業の推進にあたりご協力いただいた皆様は以下の方たちです。建築、福祉等の専門分野からのご指導や、事務局の手足となって寒いなかでの調査にご協力を頂いた方、得意なパソコン技術でサポートしてくれた方、土日には徹夜で作業を手伝ってくれた方など皆様には、さまざまな面からサポートをしていただきました。心から感謝申し上げます。

<ご協力いただいた皆様>

豊田 謙二 理事長	福岡県立大学教授
小坂 和英 副理事長	小坂設計事務所
松尾 清美 理事	佐賀大学医学部助教授
坂田 栄二 理事	九州日立マクセル(株)
松原 昌三 理事	福祉 SD グループ
相川 久美 様	カラーコーディネーター
村田 知之 様	佐賀大学大学院医学系研究科修士課程院生
大場 順子 様	建築士
最所 玲子 様	建築士
明石真由美 様	デザイナー 報告書表紙デザイン担当
池 智大 様	近畿大学産業技術研究科造形学専攻博士前課程院生
木村 裕子 様	福岡県立大学院生（社会福祉士）
田中 和敏 様	町民
山本 恵介 様	町民
井内 陽三 様	理学療法士
海尾美年子 様	理学療法士
村田 伸 様	姫路独協大学助教授（理学療法士）
加藤真由美 様	九州日立マクセル（株）
三俣喜久男 様	住宅改修事業者
植木 康平 様	事務局アルバイト
*印刷製本協力 よしみ工産株式会社（NPO 福祉用具ネット会員）	

平成筑豊鉄道赤池駅調査のようす



車いすや電動4輪車の体験



側溝のふたの隙間が大きく車いすのキャスターがはまる



その他にも、色彩について専門学校で勉強中の畑山和之さんや環境デザインについて大学で学んでこられた田中千里さんにも現地調査に協力していただきました。また、事務局のパソコン動作環境の整備には、九州日立マクセル(株)船津さんに助けていただきました。本当に有難うございました。また、本事業のために、現地調査に参加していただきました福智町福祉のまちづくり計画策定委員の皆様や福智町役場事務局の皆様にも心から感謝申し上げます。